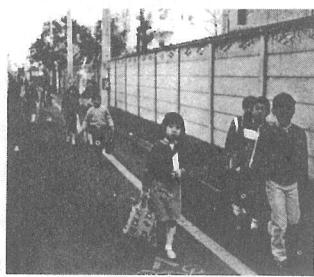


# 親子で語ろう 交通ルール

新学期まであとわずか。  
新入学児童をお持ちのご家庭では、期待に胸をふくらませながら、

入学の準備になにかとお忙しいことでしょう。

お子さんの入学にあたって忘れてはならないことの一つに、交通ルールのしつけがあります。



いままでは、比較的家の近くで遊んでいた子供たちも、学校に通うようになると、その行き帰りを初め、新しい友だちもできるなどして、行動範囲はしだいに広がっています。

ここで気をつけなければならぬのが、交通事故です。

毎年、この時季は、新入学児童の交通事故が目立ちます。入学を前に、正しい交通ルールについて、一度親子でよく話し合いましょ。

## 「飛び出し」が

### 事故の約七割

子供の事故で一番多いのが、いわゆる「飛び出し」です。警察庁の統計によりますと、昭和五十四年の幼児と小学生の交通事故のうち六十六%、つまり全体の約七割近くが、路地から大通りなどへの「飛び出し」が原因となっていました。

## お母さんへ

### 登校前はゆとりをもつて

子供のいるご家庭では、ふだんから交通ルールをよく教えるとともに、朝、学校に送り出す時は、次点に十分気をつけましょう。

◎出かけるときはしからない◎忘れものをさせない。



善意の寄付ありがとうございました。  
町では、平山さんの意志にそよぐように、福祉事業のために使わせていただきます。

う。

一方、車を運転される方は、こうした子供の行動特性を十分理解して、子供を見たら「赤信号」と思ひ、細心の注意を払いましょう。

### 特性を知ろう

子供を交通事故から守るには、まず子供の行動特性をよく知ること

△「あぶないよ」とか「注意しないよ」という抽象的なことばだけでは、具体的な行動と結びつけで理解することがむずかしい。

△信号無視をしている大人や、年上の子供を見るときもまねをしたり、自分で状況を判断しないで大人や年上の子に依存しがちで、人の流れにたよって信号もみないで横断歩道を平気で渡ったりすることが多い。

△応用動作ができない。たとえば、いつも通る道路では交通ルールを守ることができても、別の道路ではそれができないことが多い。

△物のかげで遊ぶ傾向がある。たとえば、空のダンボールに入った



とが大切です。そのいくつかをあげてみますので、この特性をよく知り、交通事故には十分注意しませう。

△子供は一つのことに気が向くとまわりのものが目に入らなくなる。ボールが道路にころがり出すと、つい走り出すのもそのためです。

△ものごとを単純にしか理解できない。いつでも、黄色い小旗を上げると車は必ず止まると思い込みますが、車は急には止まれません。

△「あぶないよ」とか「注意しないよ」という抽象的なことばだけでは、具体的な行動と結びつけで理解することがむずかしい。

△信号無視をしている大人や、年上の子供を見るときもまねをしたり、自分で状況を判断しないで大人や年上の子に依存しがちで、人の流れにたよって信号もみないで横断歩道を平気で渡ったりすることが多い。

△応用動作ができない。たとえば、いつも通る道路では交通ルールを守ることができても、別の道路ではそれができないことが多い。

△物のかげで遊ぶ傾向がある。たとえば、空のダンボールに入った

り、車のそばで遊びたがる。